

情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会
第13回 5.2GHz帯及び6GHz帯無線LAN作業班
議事概要(案)

日時:令和6年9月30日(月) 15:00~16:00

場所:Webによる開催

主 任 : 梅比良 正弘
主任代理 : 村上 誉
構 成 員 : 足立 朋子、新井 勇太、安藤 憲治、石田 和人、伊藤 朋哉、
井原 伸之、大濱 裕史、小竹 信幸、加藤 康博、木村 亮太、
黒田 淳、國吉 裕夫、久保 一哉、小林 佳和、佐藤 英一、
城田 雅一、鷹取 泰司、富樫 浩行、留場 宏道、並木 信昭、
成清 善一、西村 健二(船井構成員代理)、野坂 雅樹、菱倉 仁、
平松 正顕、福元 暁、星 洋平、本間 忠雄、三島 安博、
水谷 文彦、諸富 和臣(能木場構成員代理)
事務局(総務省): 皆川 課長補佐、岩佐 主査、出口 官

1 配布資料

議事次第

- 作業班13-1 5.2GHz帯及び6GHz帯無線LAN作業班(第12回)議事概要(案)
作業班13-2 Preamble PuncturingにおけるPuncturing部分の電力が他システムに与える影響について
作業班13-3 6GHz帯無線LANにおけるAFCシステムの運用体制等の検討開始
作業班13-4 5.2GHz帯上空利用の不要発射による5.3GHz帯気象レーダーへの影響
作業班13-5 無人移動体画像伝送システムと運用調整のご紹介
作業班参考1 5.2GHz帯及び6GHz帯無線LAN作業班構成員名簿(令和6年9月30日現在)

2 議事概要

(1) 開会

(2) 議事

- ① 5.2GHz帯及び6GHz帯無線LAN作業班(第12回)議事概要(案)
事務局から、資料「作業班13-1」に基づき説明が行われ、案のとおり承認された。
- ② 6GHz帯無線LANの周波数拡張・屋外高出力利用に係る検討
一般社団法人電波産業会無線LANシステム開発部会の城田構成員から、資料「作業班13-2」に基づき説明が行われた。佐藤構成員から、Preamble Puncturingとキャリアセンスの関係についてご質問があり、Puncturingしている部分についてはキャリアセンスは行われず、Puncturingしていない隣接チャネルである20MHz幅と40MHz

幅からPuncturingしている部分に電力が漏れ出るとの回答があった。足立構成員から、DFSとキャリアセンスについて、気象レーダーを検出した帯域を使用しないDFS機能が前提にあり、使用しない該当帯域はキャリアセンスを実施していないとの補足があった。

- ③ 6GHz帯における無線LANにおけるAFCシステムの運用体制等の検討開始について
事務局から、資料「作業班13-3」に基づき説明が行われ、特段質疑はなく本アドホックグループ設置の承認がなされた。
- ④ 5.2GHz帯無線LANの上空利用に係る検討
事務局から、資料「作業班13-4」に基づき説明が行われ、特段質疑はなかった。
- ⑤ 5.2GHz帯無線LANの上空利用に運用調整について
一般財団法人総合研究奨励会日本無人機運行管理コンソーシアムの秋本様から、資料「作業班13-5」に基づき説明が行われた。佐藤構成員から、P12のQ2通信の拒絶・制御不能の推定原因のアンケートについて、周波数毎の推定原因に違いはあるのかという質問があり、周波数毎の推定原因は分析していないが、今後も調査を行っていくため、参考にしていきたい旨の回答があった。梅比良主任から、レベル4飛行の現状についてご質問があり、都市部の第三者上空を目視外飛行するという意味で現在条件付きのため、都市部では飛行できていない旨の回答があった。また、梅比良主任から、運用調整を行っている2.4GHzは無線LANとは別の帯域なのかという質問があり、無線LANでは日本独自の14チャンネルが割り当てられているところになるが、無人移動体画像伝送システムとしてキャリアセンスが具備されていない周波数帯(2483.5-2494MHz)との回答があった。
- ⑥ その他
事務局から、今後の進め方及びスケジュールについて説明が行われた。

3 閉会